

会 議 録

会議の名称	令和4年度 第3回行田市市民公益活動推進委員会	
開催日時	令和5年1月27日（金）開会10時00分・閉会11時30分	
開催場所	コミュニティセンターみずしろ 1階ギャラリー	
出席者氏名	生沢弘幸、塚田忠子、鈴木信良、水野三枝子、島田晴義、今村武蔵、 高橋真秀、澤田春雄、関口行生、菅野邦男、福島伸悦、田尻 要、 堀越 稔 ※敬称略	
欠席者氏名	木口幸子、金原二郎、山岸泰輔、鳥海和代、伊藤賀章、芹澤勝巳、 増田有紀、鈴木崇史（オブザーバー） ※敬称略	
事務局	地域活動推進課：立原主幹、間庭主任、地域活動推進課会計年度任用 職員1名及び市民活動サポートセンター職員1名	
会議内容	1 開会 2 委員長挨拶 3 議事 （1）市民活動やる気応援助成金報告について 【資料1・資料1-1・資料1-2・資料1-3】 （2）行田市市民公益活動推進基本計画（案）について【資料2】 （3）市民活動サポートセンター年間実績について【資料3】 4 閉会	
会議資料	(1) 資料1 : 令和4年度実績報告 (2) 資料1-1 : 市民活動やる気応援助成金募集要項 (3) 資料1-2 : 2022年度パルシステム埼玉 市民活動支援金募集要項 (4) 資料1-3 : 市民活動やる気応援助成金交付要綱 (5) 資料2 : 行田市市民公益活動推進基本計画（第2期） (6) 資料3 : 市民活動サポートセンター 令和4年度取組み実績報告	
その他必要事項	傍聴人 1名	
会議 録 の 定	確定年月日	主宰者氏名記載欄
	令和5年2月16日	田尻 要

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会を宣言 ・欠席者、会議成立の旨の報告（過半数の委員の出席による） ・傍聴人 1名
委員長	<p>2 委員長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ
司 会 事務局	<p>3 議 事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要綱の規定により、会議の議長を委員長が務める旨の説明 <p>（１）市民活動やる気応援助成金報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 ・資料 1-1 ・資料 1-2 ・資料 1-3 に基づいて説明 ・今年度は、3事業の事業提案があった。審査の結果、採択が1件、不採択が2件であった。令和4年度の助成金額は45,375円、予算30万円に対し15%の執行率、昨年比85%の減少となった。昨年度は全額執行であった。 ・他の市民活動への補助実態確認として、1月23日（月）に市民活動サポートセンター田村と事務局が民間事業者の市民活動団体に対する助成金の公開選考会に出席してきたので情報共有させていただく。 ・今回公聴してきたのは、生活協同組合パルシステム埼玉の助成金「市民活動支援金」の公開選考会である。この制度に応募した団体のうち、一次審査を通過した16団体（うち1団体欠席）がプレゼンテーションを行った。 ・公聴しての所感としては、各団体の発表に共通して、それぞれの活動の動機に地域のつながりを作り、社会的弱者や行政による支援が行き届かず孤立している人々の力になりたいという強い思いを感じるものがあり、どの団体の活動も応援したいと思ったところである。分野にかかわらず、行政による支援制度に適合しない「見えない困窮者」をすくい上げるためには、市民活動団体の活動が重要だと感じた。しかし、活動のためには、活動資金という課題があり、どの団体も資金調達に苦慮している様子であった。 ・本市においても、市民活動やる気応援助成金の制度を活用し、やる気の

ある市民活動団体を応援していきたい。

- ・市民活動やる気応援助成金については、本委員会での議論を経て、平成25年度にスタートした。当初は市民活動団体のやる気応援、つまり活性化を図ることと市民活動団体同士の協働を目指すことを制度の軸にするとともに、特定非営利活動法人（NPO法人）へのステップアップを重視していたこともあり、助成金の申請に必要な書類や補助率などの水準もそれに合わせて設定した。なお、補助率は、「新たな取組応援事業」、「スタート応援事業」とともに10分の9で、上限額は現在と同じだった。しかしその翌年、助成金利用団体が継続的に活動していく上で、団体自らもある程度負担する必要があるという考えから、2メニューとも助成率を2分の1に変更することとなった経緯がある。提案事業の採択、不採択の評価についても同様に、団体のレベルアップを図るために「新たな取組応援事業」、「スタート応援事業」とともに全項目の評価がB以上でないと採択とならないようになっている。
- ・市としても皆様の意見を伺いながら、補助制度をより良いものにしていきたいと考えており、予算、市としての公平性など市側の立場もあるが、色々と検討できればと思う。制度として重要なのは、市民活動団体の活性化と、さらに進めたところで市民活動団体同士の協働を模索するところであり、これまで同様、制度の軸として、その部分は変わらないものとしていくべきと認識している。「市民活動やる気応援助成金」という名称にも、市民活動を応援し、その活動が広がるようにという思いが込められている。
- ・今回の公聴について、過去に本制度の建付けについて検討があったこともあると引継いでいることから、色々な助成制度を情報収集し、確認しているところである。
- ・パルシステムのパブリック選考会のあとは、隣接したさいたま市の市民活動サポートセンターに伺い、施設の見学と、話を聞く事が出来た。職員によると、近年市内のNPO法人の解散が相次いでいる。理由としては、法人を構成するメンバーの高齢化、コロナによる生活の変化が大きな要因であるとのことであった。
- ・本市の市民活動やる気応援助成金も、当初はNPO法人化を目標として

<p>議長</p>	<p>設定している項目が多いが、今後は多様性の観点から法人化にこだわりすぎず、助成金制度を利用した市民活動団体の活性化を重視して、活用の間口を広げるのも一つの方向性であると感じた。例えば、法人化に必要なレベルを目指した資料構成、提案事業の評価の方法等についての検討が一例であると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後に来年度申請を検討している団体の聞き取りの中で、「助成率を上げてほしい」、「提出書類が細かくて多い」、「審査が厳しい」との意見が聞かれたので情報共有する。このことについて、皆様の意見をお聞かせいただきたい。 ・「助成率を上げてほしい」という意見については、金額を上げると今度は審査が難しい。本当にそれで良いのか。難しさはあるが、ある程度のスケールメリットをもって進めることが出来ることは良いと思う。また、浅く広くという考え方もある。 ・「提出書類が細かくて多い」については、税金を使っている以上、しっかり説明責任を果たすのは仕方がないと思う。市民活動サポートセンターが丁寧に指導しており、市役所の窓口もある。今後、市民活動団体がその活動を継続していく上で、避けて通れないスキルの一つだと思う。 ・「審査が厳しい」については、個人的な考えで申し訳ないが、今年度の審査は若干厳しかった。明らかに備品購入が目的であるならばともかく、もう少し温かい目があっても良かったように思う。 ・この3点にこだわらず他にあるか。
<p>今村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予算を消化出来なかったことは残念である。「新たな取組応援事業」だけでなく、既存の団体が継続事業について規模を大きくしてやりたいと考えても、団体に予算が足りないから出来ない。そういう事業はあると思う。ふるさと創生クラブも申請したいが、「新たな取組応援事業」に該当しないため、助成要件に継続事業もOKにしてもらったら申請しやすい。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これについては、いかがか。今までの実績を積み重ねたからこそ、良い取組みの継続を支援する考え方である。
<p>生沢委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年前のコロナが始まる前の1月の委員会時[*]にも、申請数が少なく、30万円の助成金が活かされないということで、委員長を中心に3、4

	<p>名のメンバーで、この助成金の在り方について、「交付率を上げる」、「助成金額を高くする」、あるいは申請のやり方について何らかの改革が必要だということから、プロジェクト委員会を少人数で作ってやるという採決をされた。行政の方も、大勢ではなかなか意見を言えないので、プロジェクト委員会を作るという話になったが、コロナ等により一時凍結になったと記憶をしている。</p> <p>※後日、会議録を確認し、「令和2年10月の委員会時」に修正 (生沢委員に確認済み)</p>
塚田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回こういう問題が出てくるのであれば、委員長を中心に何人かのメンバーでプロジェクト委員会を作り、活発な議論の中で修正をする必要がある。採択が1件しかなくて、執行率が低いというのは、市議会議員あたりから疑問が出てきてもおかしくない案件となる。プロジェクト委員会の再出発と、3年前の論議を思い起こして立ち上げていただきたい。 ・もっともだと思う。応募件数が3件しかない。来年度も予定申請数が3件。この応募数をもっと増やしていく為の話し合いが必要。 ・前回3件の内、1件しか採択されなかった。不採択の2件については、プレゼンテーション時にこういう風に改善した方がいいとアドバイス等をして、2回目も応募出来るような方法にしたら多くなる。今回出した人が、2度と出せないのか。続けて出せるのか。この計画は1年で終わるものなのか。その辺の話し合いをした方がいい。
議長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これについて事務局の見解は。 ・塚田委員からの2回目を申請出来ないのかという疑問については、例えば今年度実施した行田環境市民フォーラムだが、5月に申請をし、同月にプレゼンテーションを行う、8月の夏休み中にイベントを企画している。そこで構想していたものが、不採択により無くなってしまうと、その次の9月に申請出来るのならば良いが、スケジュールが厳しく再申請が困難なものもある。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・生沢委員のプロジェクトの提案について同意見である。この委員会も年代的にすごい偏りがある。市民活動自体、今いる年代の人達が考えることでだけではない。小中学生、多様性がある人、外国の方、色々な人達、会社勤めで出られない人もいる。土・日でもいい。いろんな意見を出し

<p>議長</p>	<p>合い、広範囲の意見を集約して、間口を広くし、みんなで住み良いまちを、どうしたらいいか考えて関心度を高めたい。市民活動も一部の人がやっていることではなくて、自分たちでできることを自分たちでやっ ていこうという意識づけが大事だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間口を広げて意見集約し、なおかつ実行に移せるような支援をする。それが大原則となる。事務局と共に、一任というかたちでよいか。皆様からの意見を頂戴したように、「間口を広くすること」、「フレキシブルに運用できる方法がないか」ということに力を入れてみる。どこまで出来るかわからないが、皆様の意見を反映出来るようにしたい。次回の委員会に提示し、意見を頂く。
<p>事務局</p>	<p>(2) 行田市市民公益活動推進基本計画（案）について</p>
<p>島田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2に基づいて説明 ・市民活動サポートセンターの2人がよくやってくれている。私達の団体もいろいろと相談できる。ここ数年、市民活動も活発になってきたと感じる。
<p>関口委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今期計画について、これだけ見ると、誰が担当でやるのかがわかりにくい。はっきりとして欲しい。 ・5か年計画で、令和5年度から9年度までにやるのでは遅いと思う。例えば5か年計画であったら、4年で全部やるつもりで取組む。そのつもりでやらないと、また遅れる。そのくらいの覚悟でやっていただきたい。
<p>今村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金が100%消化していない。最初からこの会議に携わっているが、最初の予算50万円、申請が少なく消化出来ないということで30万円に減少した。 ・今日も市役所の中で、この委員会のメンバーになっているはずの企画政策課、都市計画課、福祉課も来ていない。問題があると思う。 ・地域活動推進課が母体となっているが、実態的には、市民活動サポートセンターの2人に下請けで、おまかせというような感じがしてならない。本当に市民公益団体を推進する、あるいは市民と協働でまちづくりをしていくということであれば、もう少し真剣に当局が主体となってやるべきだろう。今までも市民活動サポートセンターの職員は何回か変わっている。せつかく顔を覚えたら人が変わってしまう。これでは何も出

	<p>来ない。また本体である市役所の方が本当に市民活動、市民と協働でや って行くということであれば、企画政策課あたりが来なくてどうする。 この辺の市役所の取組み自体が、助成金の申請が少ない原因になってい る。もっと市民の事を知って欲しいし、市民活動団体の皆さんがいか に工夫して、資金に困りながら、そういう中で続けているという実態を把 握して欲しい。</p>
福島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今村委員の意見と鈴木委員の意見に同感で、間口を広げ、中学生とか高 校生、今の教育の中で、クリティカルシンキングというような事業があ ると思う。いろんなボランティア活動をやっている学生達もいる。中学 とか高校にこういった要綱を持って、やってみるのも一つの手だと思 う。
菅野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂は、資金がなく全てボランティアでやっていた。だから続か ない。そこへ社会福祉協議会や福祉課からアドバイスいただき、子ども 未来課の助成金制度を知ることが出来た。
澤田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・間口を広げるのは、大変いいことだと思う。中学・高校に打診し、今後 の次世代を担う方の意見は全く新しいと思う。トヨタの社長が、自分 はもう古い人間だと言っていた。これから新しい人材が必要です。柔ら かな頭で、新しい発想・構造を中学生や高校生に提案して頂き、政策・行 動出来るように進めればと思う。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・間口を広げるのは賛成である。小、中学校でまちづくりに対するコンペ などやっているのか。
今村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども大学行田で実施している。私も関与しており、手伝いをしてい る。「未来の行田」というテーマで、小学4年生から6年生までの47 名の子ども達に、未来の行田について、「君達が市長になったらどんな 行田にしたい」のか、という問いについて、短時間だが授業をした。子 ども達の発想には素晴らしいものがある。特にその中で私が感心したの は、「自然環境」のこと、「お年寄りが元気に暮らせるまち」であった。 そういうテーマが小学生から出て驚いた。子ども達に郷土のことをよく 知ってもらいたい。今年は暮らしやすいまちづくりというテーマだった が、来年はどうするか、まだ決まっていない。まちのことをよく知って もらって、子ども達がどういう考えを持っているのか、多いに取り入れ

	<p>ていくべきだろうと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人の意見について話があったが、今は通信システムが発達している。SNSを活用する、若い人の意見を集約できるシステムを組む。日中仕事をしていたりして、若い人はこういう会合には出て来られない。会合に出席出来なくても意見が出せるようなシステムを全体に考えていく。そういうことを考えれば解決出来ていくと思う。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに素晴らしい取り組みがあることを知った。それをさらに広げるのはどうか。小学生、中学生から全員が自由に応募していい。 ・「やる気応援助成金」の中から少し、優秀賞、賞品を決めるというような、助成金の入門バージョンみたいな予算はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・予算としては助成金としての30万円と、この委員会に関する報酬である。流用を行うか、また次年度当初予算として要求するかどうかというところである。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・行田市の他の部署で、もしかしてあるのかも知れないが、そういう考え方も一つかもしれない。必ずしもこの助成金で団体にお金を出すだけでなく、例えば30万円のうちの2、3万円たとえば10%ぐらいは小中学校のコンペに出して、励みになるぐらいの参加賞はもちろん、良かった人たちに賞を出し、発表する機会を作る。事務局と揉んでみたいと思う。一任頂きたい。考えてみたいと思う。また意見があれば寄せてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今村委員から指摘のあった、企画政策課、都市計画課、福祉課の者が参加出来なかったことについて、家族がコロナに感染してしまったなど、全体的に人数が少なく内部調整がうまくいかず、申し訳ない。なるべく出席して、地域活動の活性化に繋げていく、目を向けてもらえるように働きかけをしていきたい。
議長	<p>(3) 市民活動サポートセンター年間実績について</p>
サポセン	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3に基づいて説明
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体のパンフレットをコミュニティセンターみずしろのロビーに並べている。コミュニティセンターみずしろを利用する方は比較的限られた人なので、市役所に置いてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所のロビーや廊下は、確かに人が多く、最近マイナンバーカード

<p>議長</p> <p>事務局</p>	<p>交付、マイナポイントの申請で混み合っている場合もある。しかし、市役所内部においては、掲示物の整理についての方向性が近年示されており、なかなか物が置きにくく、ポスターも貼りにくい状況がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周知方法について、事務局側でも検討していきたい。 ・そういう指示があるのは、情報過多にならない様にとということだと思う。理解が出来るところもある。広報の見せ方としては、「アクティブ」と「パッシブ」がある。パンフレットなどを置いておくのが「パッシブ」、 「アクティブ」はプッシュ型で対象を掘り起こすというものである。そうすると、意外と反応があることもある。だが実はすごく難しく、お金も手間もかかる。 ・私が今年度関わっている他市の事例では、住民の方からの協力を得たいときにローラー作戦で周知した。ポスティングでその地域の全戸に、学生のマンパワーを使って周知する。そして「協力出来る方は連絡をください」と書くと、意外と返事が返ってくる。その取組みについて知らなかったが、やってもいいかなと思ったという方が少なからず出てくる。そこを突破口にして、そこからリンクを拾っていく。こういったプッシュ型も、どこかで考えていかなければと思う。もちろん市民活動の施設に来ていただける方は、すでに市民活動に対する関心の温度が高い。パンフレットを手にとってもらうことももちろんである。ただ本当に潜在的に、昼間は忙しいが、週末だけなら何とか協力できるという人も中にはいると思う。行田市にも何人かそういう方は必ずいる。そういう方々をいかに拾うか。とても大変だが、手間を惜しまずにやる。このことについても考えていかなければと感じる。それを我々がやるというとなかなか大変であるが、考えていく必要はあると思う。この委員会で必ずしも同じことをやらなければならないということではないが、市役所でも前向きに検討いただければと思う。 ・本日予定されていた議題を全て終了した。議長の職を解かせていただき、進行を事務局にお返しする。 <p>4 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉会を宣言
----------------------	--